

【5-1555】黄砂の乳幼児への短期影響 燃烧性大気汚染物質による影響修飾 (H27~H29)

中山 健夫(京都大学)

1. 研究開発目的

黄砂・PM2.5 の乳幼児への影響、燃烧性大気汚染物質の黄砂の健康影響への修飾、感受性に関わる因子を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

サブテーマ(1)

乳幼児向けにアンケートシステムを改変した。富山大の倫理審査を終え、富山ユニットセンターで乳幼児 200 名以上を登録、データ取得を開始した。TSP サンプルングを行った。

サブテーマ(2)

京都大の倫理審査を終え、京都ユニットセンターで乳幼児 150 名以上を登録、データ取得を開始した。H23-25 年度に採り貯めたサンプルフィルターにて、PAH 類その他の成分の測定を行った。TSP サンプルングを行った。

サブテーマ(3)

鳥取大の倫理審査を終え、鳥取ユニットセンターで乳幼児 100 名以上を登録、データ取得を開始した。H23-25 年度に採り貯めたサンプルフィルターにて無機炭素、金属の分析を行った。TSP サンプルング並びに PM2.5 サンプルングを行った。

3. 環境政策への貢献

越境由来の汚染物質による健康影響が明らかになった場合、国際的な協力要請の実施強化に努めることができる。また、地元由来の汚染についても健康影響が明らかになった場合は、日本国内におけるさらなる環境政策への動機につながると考える。

我々の調査では、調査の趣旨を参加候補者に理解していただく過程で、日本の一般的な子育て世代にとって「遠いよその国の問題」として捉えられがちな「砂漠化」の問題を、より身近な実際に自身の家族に直接的な影響を及ぼす可能性のある問題として考えていただくことができたと感じている。越境大気汚染についても、発生地域はもっと高濃度であること、その中で実際に子育てが行われていることに思いを馳せる母親が増えてきたと感じている。「子どもの健やかな成長」という共通した価値観・願いのもとに、広く国民レベル特に若い世代で環境保全への関心が得られたことは貴重であると考えます。

今後も、論文発表、学会発表、地域での講演、参加者携帯端末への情報配信などを通じて、本研究の広報・普及に努める。

4. 委員の指摘及び提言概要

順調に研究が進捗していると考えます。さらなる進展を期待したい。スマートフォンを利用した点は即時性があり、有効な手段である。

PM2.5 高値時にアンケート要求をしているが、スマートフォン利用によるバイアスも考えられるので、検討が必要ではないか。また、多方面の検討で結果がわかりにくくなっているため、次年度でもう少し整理してほしい。政策・対策に役立つデータとして具体的に何が提供できるのか、を吟味して研究を進めてほしい。

5. 評点

総合評点：A